

船舶事故等調査報告書

平成22年4月22日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第88号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成21年4月15日 16時20分ごろ	
発生場所	相模灘 釧埼灯台から真方位236°15.4海里付近 (概位 北緯34°59.90′ 東経139°25.03′)	
事故等調査の経過	平成21年4月15日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A ケミカルタンカー ^{さんこう} 三光丸、498トン 132071、三光運輸株式会社 B 引船 ^{こうふく} 光復丸、151トン 134233、株式会社丸辰商会 C 台船 ^{わかつき} 若月、長さ65.00m なし、株式会社丸辰商会	
乗組員等に関する情報	A 船長、五級海技士（航海） 一等航海士、五級海技士（航海） B 船長、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	A 船首部を凹損 B なし C 左舷中央部から後部にかけて凹損を伴う擦過傷	
事故等の経過	A船は、船長A及び一等航海士Aほか3人が乗り組み、キシレンを積載し、約239°（真方位、以下同じ。）の針路及び約9.5ノット（kn）の速力で、自動操舵により相模灘を航行した。B船は、船長Bほか5人が乗り組み、船尾から約230mのえい航ロープを延出し、建造用の船体ブロックを積載したC船を引き（以下「B船引船列」という。）、約085°の針路及び約3.0knの速力で航行した。平成21年4月15日16時20分ごろ、A船の船首とC船の左舷中央部がほぼ直角に衝突した。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 3、視界 良好 海象：潮汐 上げ潮の初期	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし A船は、相模灘において南西進中、単独で航海当直中の一等航海士Aが船橋後部の海図台の前で後ろ向きになり、書類を作成していたことから、右げん側から接近するB船引船列にもB船の警告信号にも気付かなかった可能性があると考えられる。 B船引船列は、東進中、左げん側に見るA船の

	<p>方位に変化がなかったので警告信号を数回行ったのち、衝突を避けるための動作として右転を開始した可能性があると考えられる。</p> <p>B船引船列は、右転を開始する時機が遅れた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、相模灘において、A船が南西進中、B船引船列が東進中、A船が見張りを行わずに航行し、また、B船引船列がA船との衝突を避けるための動作をとる時機が遅れたため、A船とC船が衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>